

学 校 目 標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを探求する。				
本 年 度 の 目 標	(1) 教育理念及び教育方針の徹底	(2) 基本的マナーの習得と生徒指導の徹底	(3) 進学実績と進学率の向上	(4) 安心・安全な教育環境の整備	(5) 変化する社会に対応する力を養う

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

	評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者評価	
								実施日	令和7年6月19日
								学校関係者の意見・要望	評価
1	教 務 教員授業力強化の取組み 教育環境の充実	■年々入学基準の数値を上げてきていることもあり、学習能力および学習に対する意欲の高い生徒が増えている。 ■選択授業においては座学の授業には適していない進路指導室やクラブ室、会議室などを使用せざるを得ない状況であり、その差感到き苦しんでいる。 ■非常時における避難経路の確認を行っている。 ■災害時における非常食の確認を行っている。 ■電力料金の上昇により、節電の努力が求められる。 ■次年度から教務システムを新たなものにするため、その準備の徹底を図る必要がある。	■教科会を充実したものにし、生徒の学習意欲を喚起し、学習効果の高い授業の構成を図る。また、予習復習の意義を徹底させる。 ■長期休暇中の課題提供およびその確認を行う。 ■選択授業においては、極力同じ教室での実施を図るが、それが困難な場合は、必要によって実施教室を変えることも検討する。 ■日々の設備、および備品安全管理の定期点検を実施する。 ■避難訓練の全学年同時実施を行う。 ■災害時の非常食確保に向けての定期点検を実施する。 ■節電への意識高揚と放課後の無人教室照明の消灯等、具体的な節電方法を提示する。 ■現状の教務システムの機能と本校の教務規定を確認し、新システムに不足なく移行していく。また、現状のシステムの問題点で改善できるものにも検討・対応する。	■教科への興味、意欲の向上。 ■学習習慣の定着。 ■授業力の向上およびそれに伴う授業満足度の向上。 ■試験前の学習習慣の定着。 ■防災対策備蓄品を含むの確保。 ■清掃活動の徹底。 ■電気使用量の増減の確認。 ■新教務システムへの移行準備の完了。	■定例として教科会を行い、有意義な情報共有や課題検討が行われている。 ■スタディサプリ等の実施、定着により学力は向上している。 ■朝夕ともに、自習室や職員室前で学習に取り組む生徒が増加している。 ■定期試験前になると、放課後残って勉強する生徒は多くなり、自習室だけではなく、自教室やランチルームを使用している。 ■上記の点に関しては、何とか収容されているものの、自習場所の不足は否めない。 ■火災報知器、非常放送、消防設備、貯水槽の定期点検の実施、災害対策備蓄品の確保と管理を、事務と連携して行う。 ■校舎施設、備品の安全点検を行う。 ■照明、照度、飲料水の定期点検の実施。 ■避難訓練の実施。 ■新教務システムに移行するための基本的な準備は完了している。	B	■新教務システムの導入元年のため、システムを利用した業務を過誤や不足がないよう運用する下地を作らなければならない。併せて、そのマニュアルの作成も必要となる。 ■生徒の学力が上がっているため、それに対応する教員の授業力も上げなければならぬ。授業見学や授業評価アンケートを参考に、改善していくことへの各自の意識とともに、教科会の実施も重要である。 ■校舎設備に関しては、号館による使用年数の差があるため、特に4号館に関しては注視してゆく必要がある。また、新規採用の教員も多いため、校舎や設備の使用に関して共通の理解を持ち、それを生徒にも伝えることが必要である。 ■教育的な内容において、年々、新たな取り組みや変更等があるため、教務内規を見直し、整理しなければならない。	学校の敷地自体が狭く、また施設の老朽化も進んでいる。一方で、多彩な生徒が入学してくると現状に設備面が対応できていないように思われる。	B
2	進路指導 進路指導の充実	■共学6期生の卒業になる。 ■本年度の高校3年生は昨年度よりも好成績の生徒が多い。本校の現状として高校2年生をどのように成績向上してもらうかが大切である。 ■高校2年生の基礎学力を測定するスタディーサポートの英数国数値を比較する。 【現高校3年生】 英語B1以上…200名 214名 数学B1以上…124名 142名 国語B1以上…152名 131名 英数国A3以上…80名 72名 ■特に国語の基礎学力を向上させていくことが大切である。	【高校3年生向け】 ■生徒向けの進路ガイダンスを実施し、一般選抜型受験と英語外部、検定試験のメリットを共有し、生徒のモチベーションを上げる。 ■卒業生チューターとの面談 指定校・公募・総合選抜型受験の生徒・面接対策・小論文指導を中心に、一般選抜型受験の卒業生から具体的な学習法とメンタルケアを行う。 ■受験校研究 生徒の志望校を踏まえつつ、合格しやすい併願校のプランニングを行う。先生方と情報共有することにより、生徒向けの進路ガイダンス、三者面談により落とし込みを行っていく。 【高校1・2年生向け】 ■適性診断で文理選択・学部選択の意欲を向上させる。 ■社会見学・高大連携講座で好奇心と将来の進路選択への意欲を喚起する。 ■社会人講演の実施（今年度は通訳の方に講演を依頼）	■大学合格目標 ・国公立・早慶上理 100名 ・GMARCHレベル 240名 ■1・2年生は模試成績の前年対比で、各年度の大学合格目標を達成できるレベルの数値設定を超えられるかどうかを確認。	■大学合格目標 ・国公立・早慶上理 103名 ・GMARCHレベル 251名 ■全体的に数値として合格目標を上回ることができた。本年度は難関国公立・準難関国公立大学や早慶上理大合格者が増えた。 ■卒業生の良い点も改善点も伝統として蓄積するため、「受験体験記」を全生徒に書いてもらうことにより、次年度の先生・生徒にも情報共有し、併願校指導や学習法を組織的に行うことができた。	A	■大学合格目標を数値上で上回ることができた。 ■次の目標として、筑波大・千葉大・横浜国立大など関東近郊の準難関国公立大学合格者を増やす。 ■地元の埼玉大・埼玉県立大学の合格者を増やす。 ■東大・京大・阪大・東北大など最難関国公立合格者を出す。 ■私立最難関の早慶合格者を増やす。 【教員】 今年度の学年・担任・教科担当者だからできたということではなく、どの年度でもどの担任でもできるよう、浦和麗明高校の組織としてのノウハウを蓄積していきたい。 【生徒】 実績として数値目標のさらなる向上はもちろんのこと、第一志望合格者という点にこだわり、第一志望の合格者の人数を増やしていく。	先生の面倒見の良さには非常に感謝している。 学園間の人事交流による異動や退職などにより多くの先生が学校を離れていくことは残念。	A
3	生徒指導 生徒指導の充実	■学校全体として落ち着いた雰囲気で生活することができている。 ■年間の懲戒指導件数も数件となっており、生徒自身が善悪の判断がしっかりとできている。ただし、学年における軽微な指導（携帯電話の規定違反など）は減少傾向とはならず、今後も注視していく必要がある。 ■学校での活動に不安を感じている生徒が一定数おり、担任・学年主任・生徒指導部・スクールカウンセラーと連携し迅速に対応する体制を整えている。 ■校則や生徒の購入品に関する規定の見直しを数カ年かけて行っている。また、世間における物価高などを考慮して学校制定品の見直しなどに取り組んでいる。 ■SNS等については、禁止するのではなく使用方法を説明し生徒たちの理解を得ていく必要がある。 ■文化祭などの行事も新型コロナウイルスの影響を受けることなく実施できた。	■教職員による積極的な玄関・廊下等での挨拶の徹底、外部からの来校者に対しての生徒から自主的な挨拶を徹底する。 ■手帳型生徒手帳を採用し、生徒自ら日々の行動・状態を把握できるようにするとともに、担任からのアドバイスをより明確にできるように変更した。 ■学校生活に関する不安やいじめに関するアンケートを紙媒体で行うのではなく、Googleformを活用することで匿名性を高めて行っている。 ■クラブ活動の積極的加入と共に、継続的に活動させることを目標とした運営を教職員に指導した。 ■担任を始め、学年・授業関係者が日ごろの生徒の状況を観察し、気になった時点で教員間の情報の共有化を図る。 ■通学路における要所における交通安全指導を行い生徒の安全を守る。	■遅刻、欠席者の減少 ■問題行動の減少 ■活気のある学校生活 ■退学者の減少 ■交通ルールの遵守 ■課外活動の活性化 ■通学路の環境整備 ■SNSの使用方法	■文化祭などの行事はすべて通常通りに履行することができた。 ■年間の指導件数は他校に比べ、非常に少ない状況で推移した。この点については、担任の先生や学年主任が日ごろから生徒に寄り添った指導を行ったことで、善悪の判断を思慮深くできたと評価できると考える。 ■警察、鉄道警察隊など各関係機関と協力して、生徒の活躍する場を増やすことができた。 ■学校生活アンケートにおいて匿名性の高い状況を作ったことで、生徒が素直に回答できる環境を整えることができた。 ■校則に関しては、他校（県内外私立）や企業や大学などに意見を求めるなどして改善を図っていった。 ■本校だけが特別多いわけではないが、進路変更する生徒数が減少傾向にならなかったことは反省すべき点である。スクールカウンセラーと更なる連携を図るなど状況を好転させるようにしたい。	B	■登下校時、校舎内ならびに来校者に対する挨拶の徹底。 ■遅刻、欠席者の状況把握と共に早期指導に重点を置く。 ■各学期に二者面談、6月、11月に学校生活アンケートを実施し、生徒の学校生活を安心・安全に過ごせるように取り組む。 ■学校行事、課外活動への参加を促し、活気ある学校を目指す。 ■スクールカウンセラーの活用及び連携を強化し、より生徒のケアを積極的に行っていく。 ■生徒主導による行事等を計画していきたい。 ■生徒購入品（必須購入品）などの見直しを継続的に行っていく。	他校と比べて転退学により進路変更をした生徒数は少ないように思われる。 入学してくる生徒の規範意識の高まりや社会情勢に合わせて、今後も校則を柔軟に変化させていきたい。	B
4	教科指導 教科指導の充実	■知的好奇心旺盛で、日々の授業や定期試験に向けた学習に意欲的に取り組む生徒が増加傾向。 ■生徒の学力層が高まっているため、難関国公立大学を目指す生徒が増加傾向。 ■一方で、最難関大学合格者を増やすにあたっては、家庭学習習慣が未定着、不安定な生徒も数多く存在。 ■模擬試験に対する意識も高まり、河合塾模試等を含めて意欲的に受験する生徒が増加傾向。しかし、模擬試験の結果のみに注目し、復習が徹底できていない生徒は散見される。 ■入学時点で英検2級、準2級取得済み生徒も多く、英検取得への意識も高い。	■朝のHRでの小テストを継続実施すると同時に、各授業においても小テストを学習内容の復習と家庭学習の習慣化を図る。 ■土日祝日に自習室の開放を実施（3年生対象）。 ■定期試験、模擬試験の復習を各教科・科目の課題やとすることによって復習の意識付けをする。 ■模擬試験の内容を定期試験に出題し、復習定着度の可視化を図ることで、復習に取り組む意欲の向上を促す。 ■学習指導の均一化、個別最適化や難関大学対策として、スタディサプリや代ゼミフレッックスサテラインなどの映像コンテンツの活用を促し、授業外での学習効果を高める。 ■DMN英会話の活用により、アウトプット時間を確保すると同時に、インプットした英語の知識（単語・文法など）の定着を促し、「読む」「書く」「聞く」「話す」すべての処理速度の向上を図る。 ■難関大学記述対策として、Z会の通信教育を活用した講習を実施する	■各種模擬試験の途中経過（前年比・前回比）の定点観測 ■英語検定の合格状況 ■最終的な大学合格実績（MARCH・国立早慶上理の合格者増）	■【新2年生（1年生）】※1月記述模試比較 偏差値60以上の前年度比較としては、国語が59%増、数学35%増、英語が2%増。 ■【新3年生（2年生）】※1月記述模試比較 偏差値60以上の前年度比較としては、国語7%増、数学は8%減、英語104%増。 ⇒概ね前年度比を上回る成績で推移しているものの、新2年生の最上位層の生徒数が少し不安。 ■英検合格者（昨年度比） ※R6年度合格者数 [準1級]:9名 (-6) [2級]:244名 (-11) [準2級]:92名 (-108) ■R6大学合格実績（昨年度比） ・国公立早慶上理レベル:101(+25) ・GMARCHレベル:251(+43)	C	■土日祝日の自習室開放については、通年で学年全体の15%程度人数が毎回参加する状況であった。年々、自学自習ができる生徒の割合が増えていることが感じられる。 ■映像コンテンツの活用については、少しずつ運営体制も整い、活用状況が改善傾向である。苦手科目の演習や不明点の解消などを目的に、自己判断で映像コンテンツを活用する生徒が増加傾向である。 ■英検の受験・合格状況については、受験者・合格者の増加傾向が見られると同様に大学中級レベルとなる準1級合格者も出てくるようになった。準2級、2級の合格者が昨年度比で減少しているのは入学前に取得済みの生徒が増加したことによる。準1級の昨年度比減少については、スコアアップのための2級再受験増加、国公立志望生徒増加による戦略的回避、1年次に準1級に合格した生徒がいたことの影響があったと考えられる。引き続き、国際教育部のRGEなどの英語の取り組みも含めて、定期試験・模試の予習・復習の徹底やabceed、DMN英会話の積極的活用を促すために提示や声掛けを継続する。 ■合格実績についてはクラス担任や進路指導部による進路指導（出願指導）のおかげで、大幅増という結果であった。次年度以降もこの流れを継続できるように、生徒の成績を定量的、定性的に分析し、各教科の指導に反映させていきたい。	入学者の学力向上に合わせて、受験する模擬試験を変更することでも検討すべきでは。	C

5	広報 広報活動の充実	■入学者数 347 名(男 170 名女 177 名)10 クラス 特選Ⅰ類 90 名(男 37 名女 53 名) 3 クラス 特選Ⅱ類 109 名(男 55 名女 54 名) 3 クラス 特選Ⅲ類 148 名(男 78 名女 70 名) 4 クラス ■単願 186 名 併願 161 名 ■入学者数は募集適生範囲内になる。 ■男子の入学者数も女子とのバランスが取れている。	■上位層獲得の為の方策 ■男子学生獲得のため、掲載記事の工夫、部活動体験 ■説明会・個別相談会：北辰結果返却週の終日実施 ■高校入試ガイダンス：高校選びや入試の説明5～7 月実施 ■オープンスクール：7～9 月 3 回実施 ■プレミアム個別相談会：10～12 月 17:00～20:00 実施 ■上位層獲得が見込まれる京浜東北線浦和・大宮、高崎・宇都宮線強化 ■徹底した塾訪問強化 ■相談者の多い地区に担当者を増やし、中学校訪問時間短縮。同日、早めに塾訪問実施	■入学者数と単願・併願の推薦者数 ■単願 200 併願 1000 ■京浜東北線沿線・高崎線沿線 ■武蔵野線の入学者数増加	■入学者数 386 名(男 175 名 女 211 名) 10 クラス 特選Ⅰ類 114 名(男 50 名 女 64 名) 3 クラス 特選Ⅱ類 114 名(男 44 名 女 70 名) 3 クラス 特選Ⅲ類 158 名(男 81 名 女 77 名) 4 クラス ■単願 205 名 併願 181 名 ■入学者数は募集適生範囲内になる。 ■女子の入学者にバランスが多少ではあるが傾いてしまった。 ■予定通りの入学者数を確保できた。	A ■入学者数を 360～380 名に抑制 ■上位コース入学者数を確保 ■重点地域の上位層に向けた広報活動を強化 ■進学実績と学習の取り組みをリンクさせて宣伝 ■オープンスクールを 7～9 月に 3 回実施し、中学生の進路活動のサインゲにマッチさせる ■朝霞・新座・東所沢・新秋津方面・越谷・春日部方面の上位層獲得に向けた開拓を引き続き実施 ■高崎線・宇都宮線沿線は引き続き強化	A 上位コース入学者数を確保するためには、公立人気校を受験する併願入学者ではなく、単願入学者へのアプローチを検討すべきではないか。
6	国際教育 国際教育の充実	■入学してくる生徒の学力層が年々上がり、英語に対して強い興味・関心を持つ生徒、国際系の学部への進学を希望する生徒、日本の外に目を向ける生徒が徐々に増えている。 ■英語力を伸ばすのに効果的なオンライン英会話(DMM英会話)を導入しているが、十分に活用しきれていない。 【DMM英会話について】 ■契約すると「毎日 1 レッスンプラン」が利用可能。 ■1 年生は任意契約で毎年100名程度(学年の1/3～1/4程度)が契約。原則自宅でのみ利用可能で、学校内で取り組める場がない。 ■2・3 年生は全員契約。週に 1 回の授業での利用のみの生徒が多く、自宅で積極的に取り組めていない。 ■実際に英語を使ってコミュニケーションをとる場として、海外研修、British Hills研修といった行事を企画しているが、任意の参加のため、年度や他の年間行事などの絡みで参加者が思うように伸びない場合がある。	【Reimei English Gymの開設・運営】 ■開設の目的や概要を生徒・保護者のみならず教職員も含めて理解してもらうため、職員会議や学年集会での説明、「国際教育部つうしん」の発行など、積極的に啓蒙活動を行う。 ■参加生徒の満足度を上げられるよう、環境面の整備、設備の充実を目指して準備を進める。 ■内容面の充実も目指し、様々な英語に関わるコンテンツや教材を研究し、参加生徒へ共有していく。 【海外研修のさらなる充実】 ■生徒・保護者が魅力に感じるような行き先や行程を用意するだけでなく、高校生のうちに海外を経験することの意義などを、説明会等を通して丁寧に伝えていく。 ■参加生徒の安全安心を第一に、「参加してよかった」と思ってもらえるような研修になるよう細心の注意を払って引率業務をおこなう。 【British Hills研修のさらなる充実】 ■対象学年を分けて年に 2 回実施し、より多くの生徒が研修に参加してもらえるよう、説明会を実施するなど、積極的な募集活動をおこなっていく。 ・第 1 回：2・3 年対象、6 月実施 ・第 2 回：1 年対象、11 月実施 【校内English Campの開催】 ■授業やDMM英会話で培った英語力を実際に試す場として、令和 6 年度から新たに、校内で英語漬けの 3 日間が過ぎせる企画を開催する。	【Reimei English Gym】 ■入会生徒数：80 名程度 ■平均来室者数：毎回10 名程度 【海外研修】 ■参加人数：30～40 名(バス 1 台分の人数) ■満足度：夏期・春期ともに、参加者平均 90% 以上が「満足」の評価 【British Hills研修】 ■参加人数：合計100 名程度 ■満足度：各回ともに参加者平均 90% 以上が「満足」の評価 【校内English Camp】 ■参加人数：50～60 名 ■満足度：参加者平均 90% 以上が「満足」の評価	【Reimei English Gym】 ■入会生徒数：100 名(1 年 90 名、2 年 9 名、3 年 1 名) ※(R6) 81 名 ■平均来室者数：令和 4 年度 6.8 人 令和 5 年度 8.6 人 令和 6 年度 7.5 人 【海外研修】 ■参加人数： ・夏期(ベトナム)：12 名(1 年 8 名、2 年 2 名、3 年 2 名) ・春期(ドイツ)：33 名(1 年 26 名、2 年 6 名、3 年 1 名) ■満足度： ・夏期(ベトナム)：100% (満足 4 名、とても満足 8 名) ・春期(ドイツ)：96.9% (満足 1 名、とても満足 31 名) 【British Hills研修】 ■参加人数：計 71 名 ・第 1 回：21 名(2 年のみ) ・第 2 回：50 名(1 年のみ) ■満足度： ・第 1 回：100% (とても満足 21 名) ・第 2 回：98.0% (満足 2 名、とても満足 47 名) 【校内English Camp】 ■参加人数：39 名(1 年 26 名、2 年 11 名、3 年 2 名) ■満足度：94.9% (満足 5 名、とても満足 32 名)	B 【Reimei English Gym】 ■入会生徒は増えたにもかかわらず、平均者数は昨年度を下回る結果となった。これは年間の開室日が前年度比で 20 日減った(行事やイベントが増えたことが主な要因)ことも関係していると考えられるが、結果は真摯に受け止めて、次年度への反省材料として次につなげていきたい。 ■令和 6 年度から、洋書を読んで音読をおこなう「多読多聴×音読トレーニング」というメソッドを導入したが、生徒から概ね好評で、英語を話すことに自信がついた、DMM英会話で役立ったという声を耳にした。次年度も継続して取り組ませていきたい。 【海外研修】 ■夏期に関しては、残念ながら昨年度を大きく下回る参加者数となってしまった。昨年度の台湾に比べると費用が高くなってしまったこと、ベトナムの魅力を十分伝えられなかったことなどが考えられるので、反省を今後に生かしていきたい。 【British Hills研修】 ■満足度は過去年度同様、非常に高い結果であったが、参加人数は予想を下回るものであった。今年度からは同じようなコンセプトのイベントである「校内English Camp」を開催することにも鑑みて、次年度からは全学年合同で、年 1 回の開催に変更し、より充実した研修にしていきたい。 【校内English Camp】 ■60 名程度の参加を見込んで募集をおこなったが、結果的には 40 名程度の参加であった。満足度は非常に高いものであったので、次年度はより多くの生徒が参加したくなるよう、日程面や内容面でより工夫をしていきたい。	B 国際教育部の活動のみならず、選択制でさまざまな体験の場を提供していただけるのはありがたい。 今後、長期留学を希望する生徒に対応するための制度を準備していくひつようがあるのではないか。